

地域情報誌
2016年12月
(No30)

DE すがね

〈編集・発行〉生きがいのある須金をつくる会

みんなが主役、ふれあい文化祭！



(オープニングのフルーツダンス「行こうよ須金」)



(音楽発表)



(工夫を凝らした学習発表)



(全校劇「アリの世界」)

11月13日(日) 須磨小学校でふれあい文化祭が開催されました。全校児童11名の音楽発表、学習発表や劇の発表などがありました。ここでは、みんなが主役でみんなに出番があります。学習発表では、分かりやすく劇仕立てにしてあったり、途中にクイズがあって観客を巻き込んだり、努力や工夫の跡がみられました。劇も練習を見たときは心配でしたが、子ども達はしっかりと自分の役割を果たして、立派にやり遂げていました。子ども達の頑張りに胸が熱くなる、素敵な文化祭でした。

(文/三牧清隆)



人物紹介 二家本 美津子 (にかもと みつこ) さん



須金の郵便局長として、そして地域活動でも自主防災組織や読み聞かせの会でご活躍の、二家本さんにお話を伺いました。

(ようこそ須金郵便局へ)

Q. 郵便局長として4年目になりますが・・・

須金の人は何でも前向きにとらえて、すぐに実行する人が多いし、みなさんとても明るいので、とてもいい地域だなと思っています。郵便局長は地域にゆかりのある方がなる事が多いのですが、私は地域の事が分からなくて教えてもらう事ばかりでした。定年退職するまでこの須金郵便局に勤める覚悟なので、少しずつお役に立てるように頑張りたいです。

Q. ご自身の事について教えてください。

美祢市の出身で、郵便局に就職してからは広島、地元の美祢や下松などで勤務したあと、ご縁があって須金の郵便局長になりました。結婚して子供が生まれるまではアウトドア派で、海や山に遊びに行っていました。ボディーボードやスノーボードもやっていました。

Q. 地域活動に積極的に参加されていますね。

最初は地域のお役に立ちたいと思っていてもなかなかきっかけがありませんでした。コミュニティの会議で無線免許の取得を勧められてから、防災ハムネットに所属し、自主防災組織にも参加させて頂くことになり、地域に入っていききっかけになりました。

読み聞かせの会は、未就学の子供達とその親同士を結びつける場所が無いのが気になっていて、何かのきっかけになればと思って始めました。10月に開いたハロウィンパーティーでは、読み聞かせに加え、お菓子を配ったり、ランタンづくりをしたり、子供と親だけでなく、お年寄りも交えて世代間の交流を図ることができました。

Q. 最後に一言お願いします。

郵便局を1人でも多くの人に使ってほしいと思っています。私達も皆さんに気持ち良く利用して頂けるように頑張りますので、よろしくをお願いします。

須金唯一の金融機関である郵便局。地域に無くてはならない施設ですね。みんなで意識的に活用して、大切に守っていきましょう。気づけばもう12月ですよ・・・という事は・・・、皆さん年賀状を買いに須金郵便局へGO!!

(インタビュー/三牧清隆)

今年も清瀬高校の生徒が須金にやってきた～



(対面式の様子)



(娘も一緒に、夜はトランプ)

またまた、東京からかわいい女子生徒3人が我が家に民泊しにやって来ました。今回は錦グリーンパレスに迎えに行きました。車の中ではみんな緊張して、あまり会話がはずみませんでした。家に帰り、一緒に食事の準備をしたりしているうちに自然に打ち解けて、笑いながら話ができるようになりました。

包丁の使い方も危なっかしくて、果物の皮をむくと皮に沢山の実がくっついていたりして少し大変でしたが(笑)、それも楽しい思い出です。夜は一緒にトランプをしたりして、時間の経つのも忘れて盛り上がりました。

2日目午前中は、みんなで焼きそばを作って食べる午後には体験学習へ。お昼ご飯が早かったせいで、夕方はみんなお腹をすかせて帰って来ました。楽しい時間は、あっという間に過ぎ、3日目グリーンパレスまで見送りに行った時、生徒達とライン交換をしました。写真も沢山撮ってお別れました。

お昼には早速ラインのメッセージが来ました！今回も、清瀬高校の民泊を受けて、本当に良かったと思っています。
(文 / 福田 幸恵)

公民館文庫に新しい本が入ります！！みなさんご利用ください。

- 『九十歳。何がめでたい』 (佐藤 愛子)
- 『子どもをのばすアドラーの言葉 子育ての勇氣』 (岸見 一郎)
- 『コンビニ人間』 (村田 沙耶香)
- 『精霊の守り人』 (上橋 菜穂子)
- 『里山を創生する「デザインの思考」』 (岩佐 十良)
- 『家族で地方移住、はじめました。』 (移住ライフ研究会)
- 『TPP 黒い条約』 (中野 剛志) 他 数タイトルが入庫予定！



- 『GO WILD 野生の体を取り戻せ!』 (ジョンJ.レイティ、リチャード・マニング)

その不調、野生に戻れば治ります。野生の体には、ガンも鬱も肥満も高血圧もない。人間の体と心が本来持つ治癒力を使い、現代生活の痛みやストレスから逃れて健康と幸せを手に入れるために、ライフスタイルを再び野生化させよう！ロングセラー『脳を鍛えるには運動しかない!』の著者による最新作。

須金地区主な行事予定

(12~1月)

12月

- 12月 1日 (木) 地域参観日・一輪車大会
- 12月 2日 (金) 高齢者ふれあい忘年会
- 12月 6日 (火) やまびこ号
- 12月 8日 (木) ふれあい持久走大会
- 12月 9日 (金) 避難所運営ゲーム
- 12月11日 (日) それーねの日
- 12月12日 (月) コミュニティ理事会
- 12月18日 (日) ケーキ配達（ひまわり会）
- 12月21日 (水) やまびこ号
- 12月22日 (木) 小学校終業式
- 12月23日 (金) ツリー祭り（体振）
- 12月24日 (土) しめなわ飾り教室
- 12月29日 (木)
- ~30日 (金) 消防団夜警

1月

- 1月 5日 (木) 消防出初式
- 1月 6日 (金) 合同学校運営協議会
- 1月 8日 (日) それーねの日
どんど焼き
- 1月10日 (火) 小学校始業式
コミュニティ理事会
- 1月11日 (水) 地域参観日
書初め大会
- 1月22日 (日) 須金市日

※DE すがね無料メール配信

メールでもこの情報誌は読めます！申し込み方法はdesugane@gmail.comへ配信希望と書いたメールをするだけ。励まみや感想もこのメールアドレスで受け付けています。

須金で育って、いま全国でがんばっている皆さんの元へ届けましょう！



特別連載 須金歴史探訪

須金の生い立ち (3) 平安時代

文 高橋 勝己

794年桓武天皇が長岡京から平安京に遷都し、平安時代が始まります。摂政であった藤原良房の子、良度が勅命によってこの地に下り、深山に分け入り開墾し、荘園をつくります。岩山の上で見つけた金色の仏像を権現（秘密尾権現）とし、貞観13年（871年）に秘密尾神社を建立します。その後の藤原家は岡、あるいは岡山姓として引き継がれます。（岡山家系譜）

楽々谷神社は元治1年（1126年）藤井佐渡守が河内国水分神社から分霊を受け建立されました。藤井家は当時、楽々谷地域の荘園主であったと思われます。

ここまでをまとめますと、4~6世紀の古墳時代のころ、角宿禰が紀の国の国造に任じられ領主になり、奈良時代のはじめ長渡路、一升谷と兼田、中原地域を治めていた者が710年に亀山八幡宮を長渡路に建て、その5年後には権代、貞森、文屋らが菅蔵、大久保地域の開墾に着手、728年に金峯神社玉相院を建てました。749年に蓮花寺が一升谷に建立され、その後、秘密尾、楽々谷と開墾範囲は広がって行きました。そしてそれぞれの地区は荘園となし支配者が存在していたと思われます。

いよいよ次回からは、時代は戦国の世となり、この地域も時代の流れに翻弄されることとなります。

(次回につづく)



(写真：楽々谷神社)

編集後記

今年も残り1ヶ月を切りました。皆さんにとって、どんな1年だったでしょうか？何はともあれ新しい年を迎えられる、そんな小さな幸せを感じながら、寒~い冬を乗り切っていきたいですね！ (須田)